

感想文

静岡理科大学 芸術鑑賞講座 受講生 (抜粋)

■ 吉田さんとの距離は想像していたよりずっと近かった。吉田さんがピアノを弾き始めた瞬間、持っていた紙がブルブルと振動し、ピアノから出た音の波が直に伝わってきた。あの感動は忘れられません。力強さや、時には切なさが漂ってきたりして、表現力がものすごく豊かで、圧倒されました。今まで一度も経験したことのない、新しい刺激をたくさん受けました。周りの人たちも心地よさそうに聴いていて、あの空間にいられたことがとても幸せだったなと思いついて返しています。

■ 今まで聴いたことのない新しいショパンに出会い、新しい感じ方や楽しみ方を知ることができました。

■ 人生で初めてクラシックのコンサートに行きました。生でクラシックの曲を聴いて、とても素敵なものだと気づきました。吉田さんの音を聴いているうちに、音に包まれているという感覚を覚えました。全身を使って音を感じる。まさに「音浴」。あの距離感だからこそ感じることもできたと思います。リズムや強弱の変化をどう演奏するかは演奏者の解釈に委ねられているということも大変興味深い話で、では他の人はどう演奏しているんだろう？と気になりました。ピアノのすごさにも驚かされました。ピアノひとつで迫力を感じたり、感情を動かされたり、景色まで浮かんだりするのはすごい。今回でピアノの印象が大きく変わりました。人生において貴重な体験をさせていただきました。この芸術鑑賞講座を受けていなければ、一生クラシックのコンサートには行かなかったと思います。有難うございました。

■ このレクチャーコンサートで私は、ショパンに対する印象が変わった。そして、ショパンだけでなく、バッハやベートヴェンなど様々な音楽家のクラシック音楽を聴いてみたいと感じた。参加して本当に良かった。

■ 今まで聴いたことのない新しいショパンに出会い、新しい感じ方や楽しみ方を知ることができました。

■ ワルツホ短調 (遺作) は音ひとつひとつが光っているように聴こえて、すごいなと思いました。バラードの1番は私も弾いたことがあり、特に思い入れのある曲ですが、伊津子さんの演奏は始めの部分の抑揚がすごくて、その世界観に一気に引き込まれました。細かい所も一音一音がクリアで、音域が広くてすごく大変な部分も大変なめらかでびっくりしました。華麗なる大ポロネーズは響きがとてもきれいで、細かいペダル使いをして、クリアなのになめらかで、すごく惹き込まれました。

■ 伊津子さんはとても生き生きとしていて、音楽への強い情熱を感じることができ、この人のショパンを聴くことができると良かったと思いました。

■ 「内側の耳」を意識することや、音・色・香りで和音をとらえる感性は、ただ音や強弱を追っていた私にとって尊敬に値するものでした。私も再びピアノに触れ、少しでも個性を発見したいと思いました。

■ ピアノや演奏について非常に熱く、楽しく語り、演奏していたので、もしかしたら吉田さんがいちばんこのレクチャーコンサートを楽しんでいたのではないかと思います。